

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520074

研究課題名（和文）イブン・スィーナー『治癒の書』に関する比較思想史的研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of Ibn Sina's Kitab al-Shifa'

研究代表者

小林 春夫（KOBAYASHI HARUO）

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：70242229

研究代表者の専門分野：イスラーム哲学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：(1) イブン・スィーナー (2) イスラーム哲学 (3) 治癒の書 (4) ギリシア哲学  
(5) バル・ヘブラエウス (6) ファーラービー (7) 回儒 (8) 形而上学

#### 1. 研究計画の概要

(1) イスラームを代表する哲学者イブン・スィーナー (Ibn Sina=Avicenna, 1037年没) の思想の解明に向けて、彼の主著である『治癒の書』(al-Shifa')の研究と翻訳を行う。

(2) ギリシア・ラテン、シリア語圏、中国の哲学を専門とする分担者を加えて、同書成立の背景と、同書が他文化圏に及ぼした影響とを比較思想史的手法によって明らかにする。

#### 2. 研究の進捗状況

(1) イブン・スィーナー著『治癒の書』(形而上学部分)のアラビア語原典の読解と内容の検討をおこなっている。具体的には、同書「形而上学」部分の第1巻第8章までを、カイロ版、マルムラ版を基に、ムッラー・サドラーおよびナラーギーのアラビア語注釈、ラテン語訳、英訳(マルムラ)、仏訳(アナワティエ)を参照しつつ精読した。

(2) 本研究に関連するアラビア語写本の調査をトルコ(スレイマニエ図書館、イスラーム研究所)ならびにイギリス(大英図書館、オックスフォード・ボドレイアン図書館)で行い、写本データと多数の研究文献を収集した。

(3) 研究代表者および研究分担者により、以

下の個別研究を進めている。イブン・スィーナーの思想全般に関する研究(研究代表者・小林春夫)。ギリシア思想のイブン・スィーナーへの影響ならびにイブン・スィーナーのラテン世界への影響に関する研究(研究分担者・堀江聡)。シリア語圏の思想(とくにバル・ヘブラエウス)へのイブン・スィーナー思想の影響に関する研究(研究分担者・高橋英海)。ファーラービーおよび回儒思想とイブン・スィーナーとの関係に関する研究(研究分担者・仁子寿晴)。

#### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(1) 本研究の主目的である『治癒の書』原典の精読を着実に進めた。

(2) 翻訳・訳注を作成するための準備作業として、訳語の確定、データ入力、レイアウトの確定、特殊文字の処理方法について検討し、既読部分のデータを蓄積した。

(3) 研究代表者と分担者がそれぞれの専門領域において関連研究をおこない、最新の研究動向を確認した。

(4) 研究分担者の他に多数の大学院生も研究会に参加したことにより、イスラーム哲学研究の裾野を広げることができた

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 『治癒の書』の形而上学部分の読解と訳文作成を継続し、本研究の最終年度に向けて訳文の検討、訳注の作成などを行なう。さらに文献調査の進捗状況に応じて、テヘラン版や他の写本との校合も行なう。

(2) 同書に対する古代ギリシア哲学（とりわけアリストテレスと新プラトン主義）の影響、同書と神学や神秘主義等のイスラーム思想との関連性、イブン・スィーナ以降のイスラーム哲学に対する影響、ラテン語圏・シリア語圏・中国語圏における同書の受容と影響などについて、研究代表者および研究分担者が個別研究を継続する。

(3) 国内外の図書館における関連文献の調査、写本データや図書資料の収集等を継続する。

以上の他に、各自の研究成果を論文や学会発表などのかたちで随時公開することとする。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

① 小林 春夫 「イブン・スィーナ著『治癒』文献解題『イスラーム地域研究ジャーナル』vol. 2(2010), 57-63頁。

② 堀江 聡 (西村洋平との共訳) 「ポルフェリオス 新プラトン主義命題集成センテチアエ——第 1-32 章——」『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』41 卷(2010)、155-181頁。

③ 高橋 英海 「アレクサンドリアからバグダードへ」— 学知の経由地とイスラーム世界での学知の受容におけるその影響』『中世思想研究』51 卷 (2009)、132-142頁。

④ 仁子 寿晴 「中国思想とイスラーム思想の境界線——劉智の「有」論——」『アジア遊学「中国のイスラーム思想と文化」』129 卷 (2009)、61-79頁。

[学会発表] (計15件)

① 小林 春夫 Self-Consciousness in Suhrawardi's Philosophy, International Symposium on Islam, Science and Civilization, 2009, Kyoto University.

② 高橋 英海 “Between Greek and Arabic – The Sciences in Syriac from

Severus Sebokht to Barhebraeus”, チャールズ・バーネット教授特別ワークショップ「科学的知の伝承～ギリシャ/シリア/アラブ/ラテン～」2009年。

③ 仁子 寿晴 初期イスラーム哲学における二つの形而上学——哲学構築と発出論の論理構成——、東洋史研究大会、2009年、京都大学文学部。

④ 堀江 聡 アラビア哲学に於ける新プラトン主義的神秘主義のメタモルフォーシス—9世紀バグダードの改作『偽アリストテレスの神学』、長大版・同『神学』、イブン・スィーナ『治癒の書』、スフラワルディー『照明哲学』との比較、東洋哲学研究所 2008年度下半期定例会、2008年。

[図書] (計1件)

① 小林 春夫、加藤 瑞絵 (編) *Transmission of Sciences: Greek, Syriac, Arabic and Latin*, 早稲田大学イスラーム地域研究機構 2010年。